

平成 17 年度

「地域再生等担い手育成支援事業」

— 森と水が織り成す人づくりとネットワークづくり —

報 告 書

(概要版)

平成 18 年 3 月

国土交通省都市・地域整備局企画課

青森県八戸市南郷区
森と水のサンクチュアリ連絡協議会

1. 事業の背景と目的

平成17年3月31日に八戸市と旧南郷村が合併し、八戸市が誕生いたしました。旧来から経済的交流や歴史的つながりは、深い関係でありました。人口・産業等の規模や地域住民の行政や自治に対する意識・感覚の違う都市部と農村部の合併は、大きな成果ですが、非常に難しい問題を抱えながら地域間の融和と連携を模索するスタート地点に立ったばかりのことであり、今後の地域再生に向けた取り組みが注目・期待される状況でありました。

地域活性化を担う団体や住民は、市町村合併や三位一体の改革等の国と地方の行財政改革により、これまでの過疎地域における地域振興・活性化事業が、縮小するのではないか？との危機感や合併効果への期待感が交錯し、新たな地域再生への一歩を踏み出すための方向性や基本的考え方を見出せないでいました。また、公共施設の指定管理者制度の導入により、経済基盤の弱い任意の団体や住民組織の自立や組織化が求められ施設運営管理に対する環境の変化に対応しなければならない状況にありました。

こうした背景の中で、

① 旧南郷村時代に建設及び設立された地域活性化施設と運営組織について連携・協働を図り、個々の活動を総合する自主的な連絡協議組織を立ち上げる。

② 研修活動においては、組織の「自立・組織化」を学び、実地活動では、施設の「企画・マネージメント」を実践する。

③ 両活動の昇華として地域活性化・再生の担い手の育成を行い、今後の方向性と課題を洗出し、

地域自治区制度(※…1)における「南郷区地域協議会」に対し、担い手たちの循環と地域再生のためのプロジェクト提案を行い、地域再生の担い手たちの活動に「理由付け」・「誇り付け」・「存在付け」を植え付ける。

そして、様々な地域の資源を活用しながら、個々の組織団体の活動が活性化・連携・協働し、南郷区全体におよぶ交流人口の拡大とそれに伴う組織強化が促進され、自立した地域再生の循環を目指し事業の目的としました。

図① 八戸市・南郷区位置図



図② 八戸市南郷区の地域活性化施設群マップ



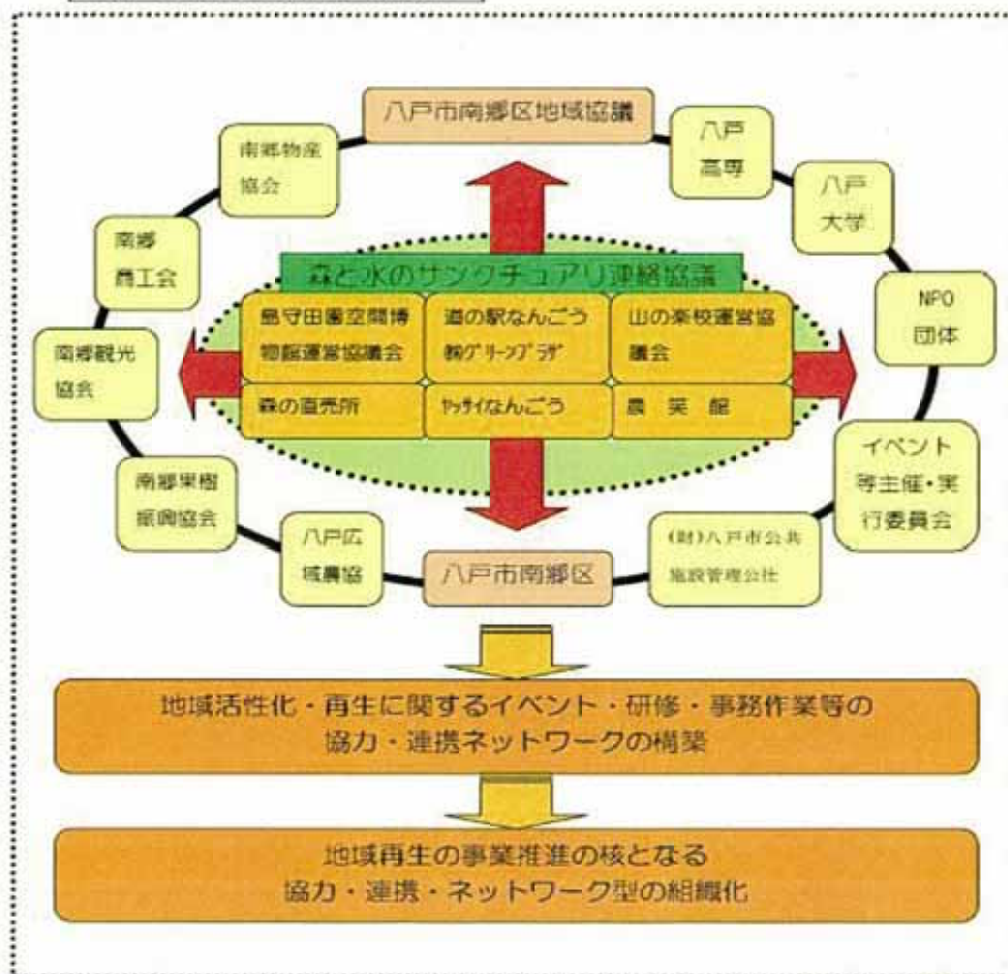
2. 事業の活動計画と目標

八戸市南郷区の地域活性化施設（道の駅なんごう・朝もやの館・山の楽校）及び運営組織の役員を中心に「森と水のサンクチュアリ連絡協議会」（以降協議会という。）を設立し、事業計画の円滑な実施のために、協議会内に研修部会と実地部会を設けました。各活動のテーマを設定し、その課題を克服・解決・実践しながら最終的に活動の総括を行い、各活動の成果を持ち寄り「専門プロジェクト委員会」を立ち上げ、八戸市南郷区における地域再生のビジョンを策定することを目標に据えました。

3. 事業の推進体制

協議会内の活性化施設の設立経緯（担当部署複数）や地域再生担い手の育成及び事業の幅広い活動の内容から、青森県・八戸市関係各機関との調整・連絡を図り、行政と協議会と住民の連携・協働による事業実施の推進体制を組織しました。これを契機に八戸市南郷区の各団体・組織間のネットワークだけでなく「産」・「学」・「官」・「民」の連携協働体制を構築し、地域活性化・再生の牽引組織となるよう期待されています。

図③ 事業及び連携推進体制図



4. 活動の結果・効果と今後の展望（研修）

1) 研修活動における基本的考え方や目標の統一

各組織の問題・課題提出に際し、管理委託から指定管理者制度への「不安」や行財政改革による「不満」が出され、組織や施設を管理運営者としてではなく受動的立場に立った「要望」の部類が多く、合意形成を得るのに意識改革が必要となった。

- なぜ「自立」・「組織化・法人化」をしなければならないのか？
- どうして自らの手で「地域再生・活性化」をしなければならないのか？

このような疑問や受身の姿勢を改善し、各組織の意思統一を行うとともに、理解を深め、能動的立場での議論を深めてから本当の「担い手」の育成であると考え、そしてこれを「地域再生等担い手育成」の意図するところとし、事業における研修活動の基本的方針や考え方を「個人の自立」・「組織の自立」・「地域の自立」そして「組織化・法人化」を目指すことを目標とし、研修活動のプログラムとしました。

図⑤ 研修テーマの整理・集約

2) 研修活動の講師と研修方法

① 鹿野谷 武文講師（NPOとITがもたらす社会変革とコミュニティーの研究）

② 講師と参加者の研修方法

◇ 「研修活動」を実施するにあたり、基本的考え方や共通する問題・課題を整理し、テーマを設け「地域再生」の「担い手（リーダー）」を多方面から育成する（される・して行く）ことを確認しました。

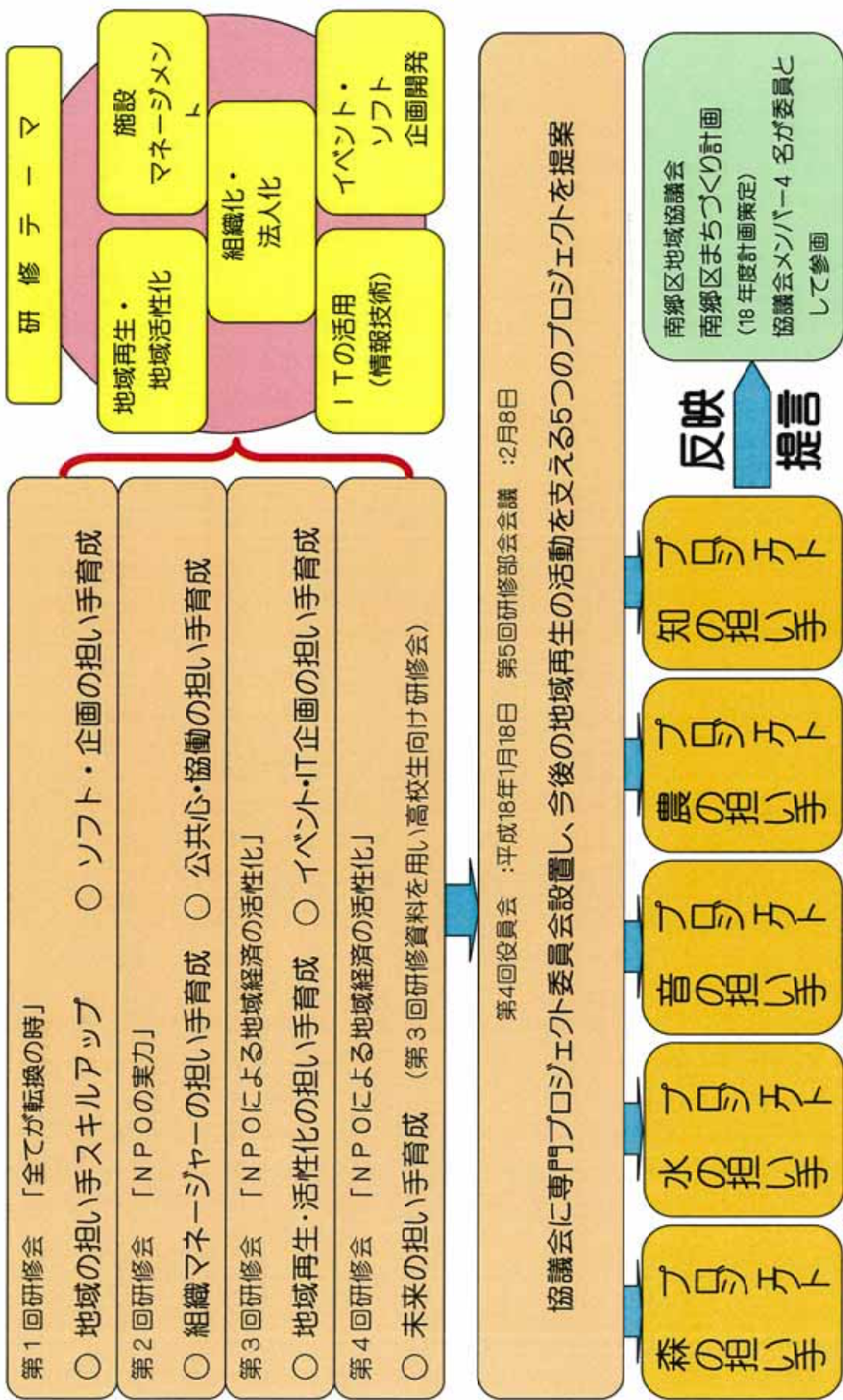
◇ 研修会参加者から要望（宿題）を出し、次回の講演にて、答え合わせ（参加者と講師が一緒に考える作業）を行いました。

◇ 講師・参加者の心構えとして研修会や講演会ではなく「夢を語る場」にすることを確認しました。



4) 研修活動の今後

図⑨ 研修活動の流れとプロジェクト提案の流れ



5. 活動の結果・効果と今後の展望（実地）

1) 実地活動の基本的考え方

森と水のサンクチュアリ連絡協議会の事業の柱の一つ「実地活動」を実施するにあたり設立準備会・実地部会会議等の中で次のような意見や要望が出され、実地活動を推進する基本的考え方を合意形成し「地域再生」の「担い手(リーダー)」を育成する(される・して行く)活動であることを共通認識として確認した。

① 実地活動内容の精査

企画や開催時期に無理の無いスケジュール調整を行う。

② 実地活動内容の継続性

単年での事業ではなく、この事業を基礎として八戸市南郷区内の既存イベントの見直しや柔軟に企画の調整を図り、地域の実情に合わせた調和の取れた実地活動事業を推進することを確認。

③ 実地活動と研修活動との連動性

過度な商行為や利益アップのイベントではなく、地域の文化歴史資源・自然景観資源・施設資源・人的資源等を活用し、事業目的の「地域再生の担い手育成」につながる実地活動とすることを確認し意見集約を行う。

④ 実地活動の地域間広域連携

旧南部藩地域や県単位で行っている行政連携や協議会組織との連携や交流だけではなく、自主的に活動し地域に根ざした活動を続けている団体との連携を深め、地域再生に向けた人材育成プログラムや中心となった企画イベントのノウハウを吸収し反映させたいとの意見が多く、事業消化の交流ではなく身のある広域連携を目標とした。

⑤ 実地活動による三施設間の連携強化

三施設にまたがる人材や事務局と各施設の事務局が中心となって、イベント・実地活動について企画・立案・調整・実行のプロセスを積み重ねる。これにより、連絡網の強化・情報の共有・人材の共有を図り統一された意識を下部組織まで拡大することを申し合わせ確認した。

以上の5項目を実地活動の大きな考え方・方針として踏まえ、実施にあたっての重要なポイントとして企画・立案・実行するときの思考・行動の根源となりました。

2) 実地活動の経過・内容

実地活動において4回のソフト企画・イベントを実施しました。

① 第1回実地活動 「八の太郎サミット」

日時：平成17年10月23日 午前10時から午後3時まで

場所：青葉湖展望交流施設 山の楽校 講堂
道の駅なんごう・グリーンプラザなんごう・ジャズの館南郷

内容：「八の太郎フォーラム」「八の太郎物産交流会」「八の太郎帰還式」等

参加人数：「八の太郎帰還式・フォーラム」161人「八の太郎物産交流会」1,000人

② 第2回実地活動 南郷新そばまつり史上最大の作戦

日時：平成17年11月6日 午前10時から午後3時まで

場所：青葉湖展望交流施設 ・山の楽校 講堂
・道の駅なんごう・グリーンプラザなんごう
・朝もやの館

内容：・三施設共通食券 (実績171枚)
・三施設周遊無料モニターバス運行 (実績220名)
・青葉湖無料周遊バス運行 (実績150名)

集客人数：3会場合計約4,800人 : 新そば祭り期間合計約20,000人(延べ5日間)

③ 第3回実地活動 ジャズ&ポップス南郷 X'mas チャリティーコンサート

日時：平成17年12月25日 午前10時から午後9時まで

場所：青葉湖展望交流施設 ・山の楽校 講堂
・道の駅なんごう・グリーンプラザなんごう
・朝もやの館

内容：各会場でクラシック・オペラ・ジャズ・シャンソンのコンサートを開催入場無料。ただし、チャリティー募金に協賛していただきました。

集客人数：3会場合計200人

④ 第4回実地活動 南郷雪ほたる祭り

日時：平成18年2月19日 午前10時から午後3時まで

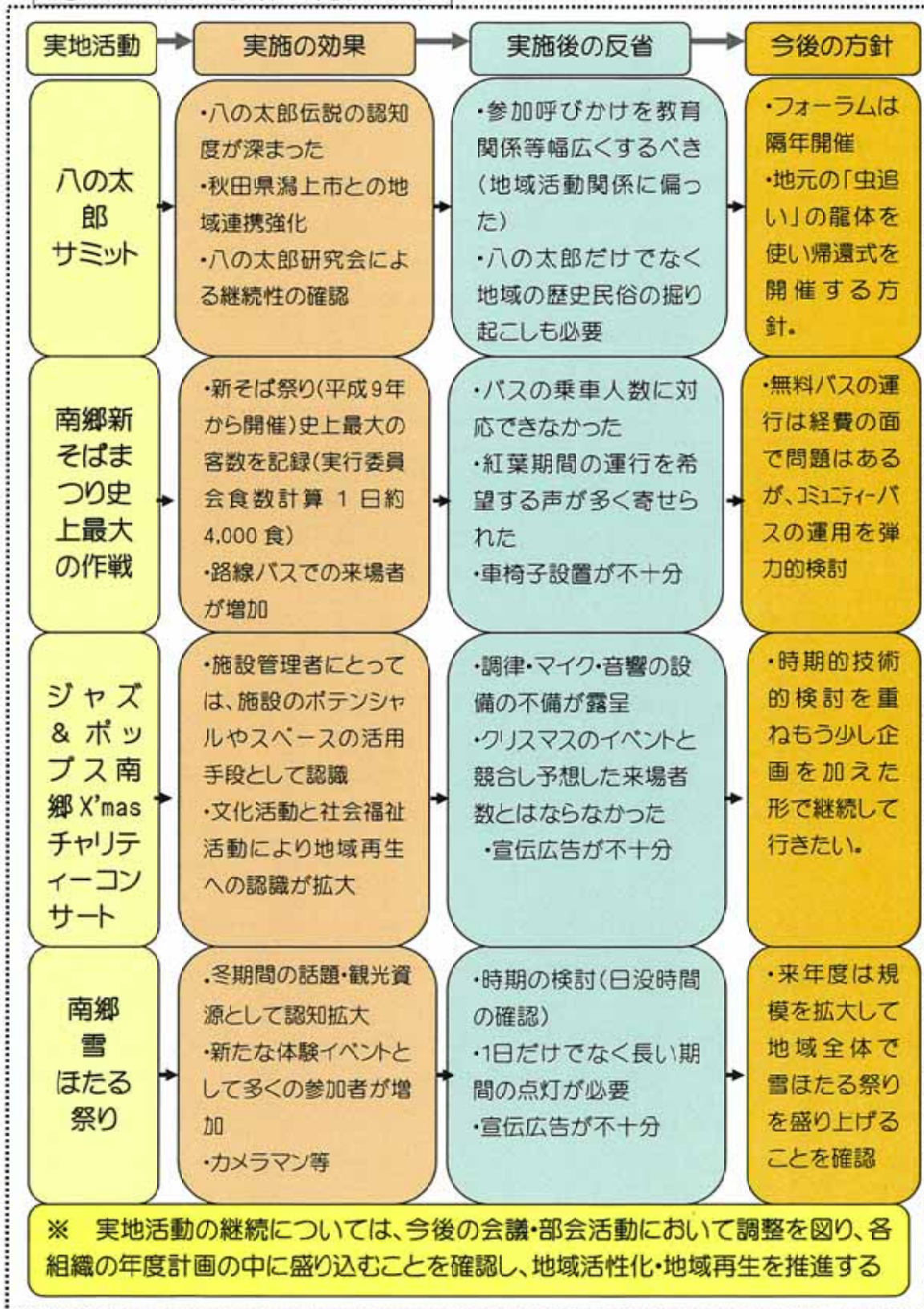
場所：青葉湖展望交流施設 ・山の楽校
・道の駅なんごう・グリーンプラザなんごう
・朝もやの館

内容：バケツで作る雪ほたるを三会場合計1,500基作成。

参加人数：3会場合計252人

3) 活動の結果・効果と今後の方針

図⑩ 実地活動の反省と今後の方針



6. 森と水のサンクチュアリ連絡協議会のプロジェクト提案

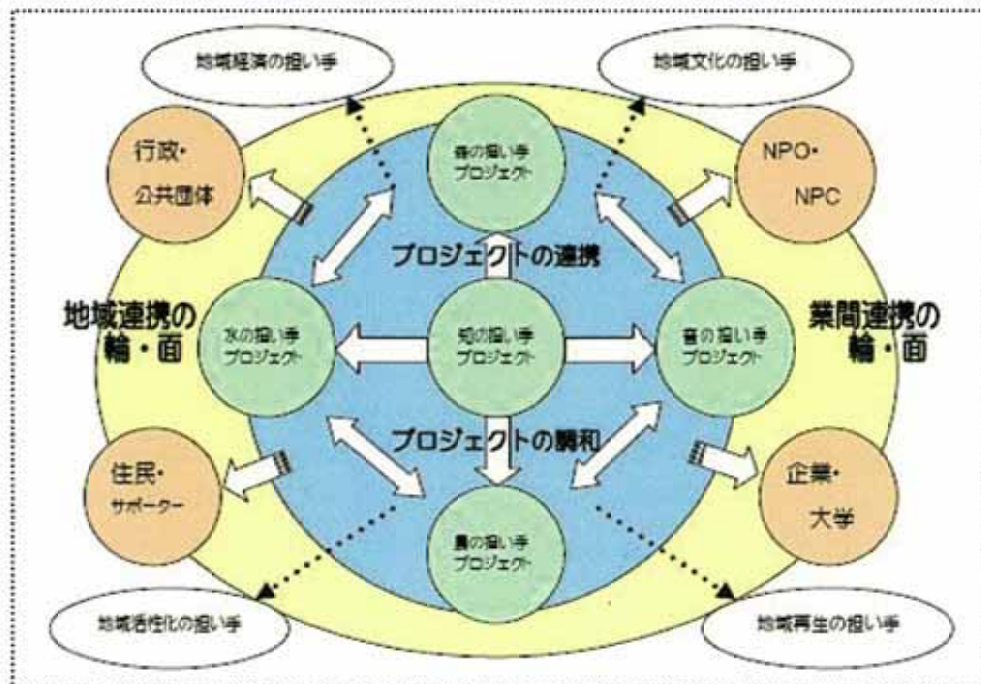
1) プロジェクト発足の経緯

平成17年6月に組織し、4回の実地・研修活動を通じて、役員の中から8名の委員を選出し、専門プロジェクト委員会での会議・議論の中で様々な提案・アイデアが出され、5つのプロジェクトに系統付けられた。地域資源から「森（山）」「水（川）」「音（音楽）」「農（農業）」「知（アイデア）」を挙げ、それらを用いてプロジェクト名を決定しました。

しかし、イベント・プロジェクト事業名の羅列では、実行性・実現性を失ってしまうのではないかと考え、「起承転結」・「立案・企画・計画・実行」（プランニング）を実施し、施設の連携・役割分担や行政との調整や既存イベントとの調和等（プロセス）を図っていく必要があるため、今回は、事業化（経済的自立）までの、方程式を探りながら、次に掲げる5つのプロジェクトが地域再生を推進する原動力となるよう期待し、提案いたしました。

また、南郷区地域協議会との合意形成がなされ、仮称「南郷区まちづくり計画」の策定にも積極的にかかわりを持つことの意味は、実効性や実現に向けた実質的な行政との推進体制と考えております。

図① プロジェクトの連携推進体制図



7. プロジェクトの推進に向けた取り組み

1) プロジェクトを推進する基本的考え方

プロジェクト提案についての基本的考え方や役割分担は、プラットフォーム型・ステージ型のプロジェクトの推進体制を想定しております。各専門分野で活躍するNPOがプロジェクトに参画するときの立ち位置や役割は、推進する「プロデューサー役」として考えられ「人」「物」「金」「情報」「ネットワーク」を動かし、プロジェクトの成否を握る重要な立場にあることは事実ですが、専門分野においてのみの限定的権限であり、プロジェクトの全権委任ではないことが前提であります。「人」「物」「金」「情報」「ネットワーク」が集約されたのは、NPO側からだけでなく行政側からも多くの「人」「物」「金」「情報」「ネットワーク」が集約されている状態が望ましく、バランスの取れたプロジェクトに対するアプローチ「協働」と「連携」の理念を双方が正しく理解していなければ成り立たない推進体制となっています。NPOは、社会の一員であって全てを解決する「万能の器」ではないこと、そして行政の果たす役割も契約ではなく、「連携」と「協働」の前提をもってプロジェクトが成り立つとの基本的考え方であります。

2) 組織連携推進の考え方

組織連携でもっとも重要視されるのは、「自立した組織」または、「自立した志の集団」か否かということであります。ネットワークの形成・組織連携では、つながる輪の太さが問題・課題となることがありますが、枠を取り払い面（ステージ・劇場）に置き換えれば、そのステージ上誰が入り出したとしても、その中心（主役）にあるのがプロジェクト（地域再生）であり、その幕が引くまでは、出番や台詞があり続ける安心感とステージに立つ連帯感が新しい組織の連携であると考えます。各プロジェクトの円滑な推進体制として組織連携は重要であり、壊れやすいものとして考えます。組織連携の基本的考えは、お互いが線ではなく面でプロジェクト（地域再生）をどう引き立たせることができるのか脇役の重要性を認識することであると考えます。

3) 住民と行政の連携・協働の考え方

旧来の市町村における地域活性化の主な「担い手」は公務員や地方公共団体であり、それを支えていたのは国や省庁であったと考えられていました。社会資本整備や地域活性化は、人口増加、経済発展等成長の条件の上に成り立った考え方で、それら社会の利害やシステムを調整する機能を持ち大きな効果を挙げていました。また、住民や企業は地域・業態ごとに統率が図られ、生活水準の向上と経済的豊かさを享受する立場に安穩としていれば良いという意識の状態であったと推察されます。（受身・縦型の関係）

しかし、内外の社会変化によって行政・企業・住民それぞれの求められる状況・役割・意識は大きく変わり、多種多様な社会を行政が全て把握し、それを担うことは不可能な現状であります。今後の地域社会・経済の「担い手」の「主役」は、行政や関係機関から地域住民や企業・NPO等の活動が「主役」として注目されているのは事実であり、行政や関係機関の役割も場面や事業ごとに変化(サポート・プロデュース役等)していく過程にあると考えます。今後の住民と行政の連携は、未来型建設な関係を構築し「連携・協働の地域社会」を推進することで、地域経済活性化や地域再生につながる重要な要素として考えられます。

4) NPO と行政の連携・協働の考え方

今後の地域活性化や地域再生は、「地域の総合力」が問われると思われれます。住民(地域内外)・企業・NPO・行政の「資源」「理念」「個人」等の力(エネルギー)の集中と、「未来」「知恵」「組織」等の志(アイディア)の選択が行われ、地域再生事業の展開が図られて行くものと理解します。その中でも「NPO」と「行政」の連携・協働は、相互補完的役割と行政の枠を超えた草の根の地域間連携を高め総合的(人・物等)な交流を促進する機能を果たすと考えます。また、NPOと行政の連携・協働の効果は各セクターの「エネルギー」源になり、「アイディア」「ノウハウ」の蓄積により事業等の推進の牽引役になると思います。「森」と「水」との関係のように、自立しながらも密接に絡み合う自然な関係構築が「地域総合力」を高める最も重要な要因であると考えます。

5) 地域連携推進の考え方

地域連携(地元住民)とNPO(地域密着・活性化・再生型)の連携については、理解されにくいことがありました。「好き」の集まりとして、地域住民がその地域活性化のイベントを見ることがあっても、なかなか参加することはありませんでした。地域連携とは、組織やNPOの中に引き込むのではなく、地域に引き込まれ「交流」とお互いの「理解」のステージに立ち「連携」と「協働」を図り、活動の「効果」と「結果」を共有することで成り立つと思われれます。また「継続」と「循環」することで地域との連携が「拡大」し「強固」になると考えます。この手法は、基本的であります、もっとも早く安全で、確実に地域(住民)との連携が強固になると考えます。

8. 事業全体と協議会の今後と方向性

1) 地域に及ぼした、事業全体の総括と今後の活動の考え方

地域や組織が「自立(律)」する上での条件として重要なものは、各組織の意識改革であり地域資源の掘り起こしや連携・協働に向けて「地域総合力」を高め、各組織が「地域再生」という大きな志を抱き、積極的な係わり合いを持つこと、そして、その担い手をどのように組織し発展させるかが試されるどころと考えます。

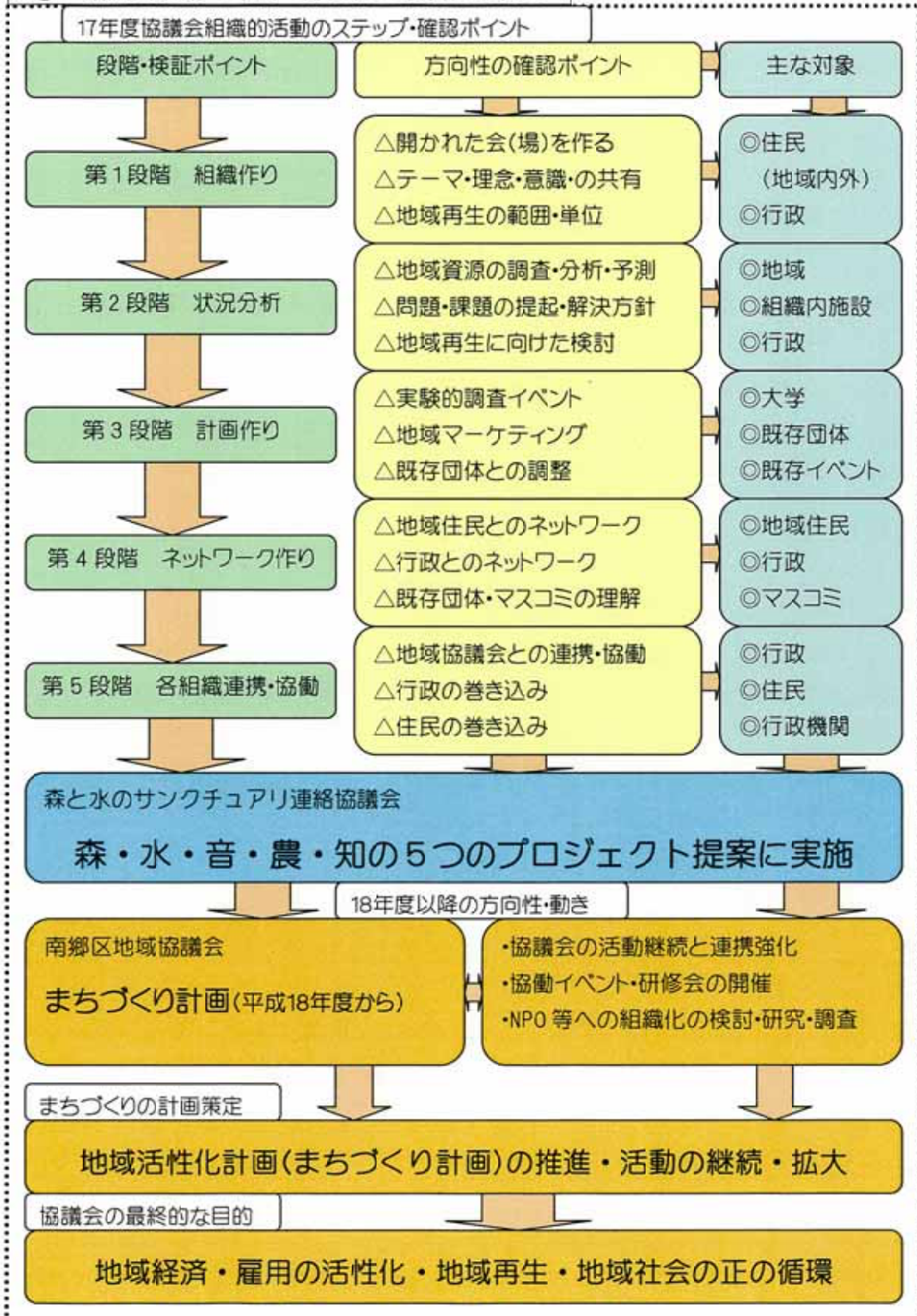
実地活動や研修活動の中で感じられたことは、この「森と水のサンクチュアリ連絡協議会」の活動そのものが、地域資源ではないのか？ そうだとすれば、地域資源としての「森と水のサンクチュアリ連絡協議会」の地域社会に対する意味や価値を好意的に認識させることができたのではないかと。つまり、合併により見失いかけていた組織の役割が地域資源として大きく貢献できるのなら活動の意味が「公」としての重要な「存在意義」(アイデンティティの確立)であると思え、さらに活動の原資である「個人」の「誇り付け」となったと考えます。森と水のサンクチュアリ連絡協議会が、協働(共同)して実地・研修活動したことにより地域住民・各行政機関・マスコミに理解されると共に、地域資源に対する意識の変化が起ころつつあり、今後は、地域の各方面とのネットワーク等更なる活動の拡大が注目されるどころとなってきました。

「森」と「水」は、旧南郷村の象徴的なイメージであり地域資源であります。この協議会と他地域や地域活性化に取り組む各組織の関係も「森」と「水」のように密接につながり合い、互いの富が互いを潤し続けるようにとの思いから命名致しました。事業の受け皿組織ではなく将来も活動を続けていく意思表示であり、「サンクチュアリ(聖地・聖域)」に込められた意味は、この地域が、地域再生の先進的地域になりこの活動が広く認知され、地域間ネットワーク等を形成することになれば、「地域再生の担い手」(聖人)達が、事業や産業を興し、自立(律)・循環することで、「地域の経済・雇用・協働・連携・自立」に到達するモデル地域(発着地)としてありたいと考えたためであります。

協議会の18年度以降の具体的スケジュールは、「南郷区地域協議会」と協働・連携しながら「まちづくり計画」の策定に着手し、南郷地域全体の将来地域像を示し、活動の公的役割を拡大させなくてはなりません。また、協議会を構成する個々の団体においては、NPO・NPCなどの組織化を図り、地域経済・雇用の活性化を推進し、地域再生と地域社会の「正の循環」を図り、「未来の地域担い手」を創出することが、長期的方向性であり目標であります。

2) 森と水のサンクチュアリ連絡協議会の連携ステップと今後の方向性

図⑫ 協議会活動の今後の方向性と最終的な目的



— 森と水のサンクチュアリ連絡協議会 研修活動の様子 —



第1回 鹿野谷塾 10月13日
山の楽校 講堂



第2回 鹿野谷塾 10月27日
ジャズの館南郷



第1回 設立総会
6月24日 ジャズの館南郷



第3回 鹿野谷塾 10月27日
ジャズの館南郷 鹿野谷 武文講師



第3回 役員会
10月7日 朝もやの館



第5回 研修部会会議 (プロジェクト会議)
平成18年2月8日 ジャズの館南郷

— 森と水のサンクチュアリ連絡協議会 実地活動の様子① —



第1回 実地活動 「八の太郎サミット」
・交流物産会の様子 10月23日
道の駅なんごう駐車場



第1回 実地活動 「八の太郎サミット」
・八の太郎帰還式の様子 10月23日
山の楽校 講堂



第1回 実地活動 「八の太郎サミット」
・八の太郎フォーラムの様子 10月23日
山の楽校 講堂



第2回 実地活動 「南郷新そばまつり史上最大の作戦」 11月6日
朝もやの館



第2回 実地活動 「南郷新そばまつり史上最大の作戦」 11月6日
山の楽校 農笑館



第3回 実地活動 「ジャズ&ポップス南郷 X'mas チャリティーコンサート」
12月25日 ジャズの館南郷

— 森と水のサンクチュアリ連絡協議会 実地活動の様子② —



第3回 実地活動 「ジャズ&ポップス
南郷 X'mas チャリティーコンサート」
12月25日 山の楽校 講堂



第4回 実地活動 「南郷雪ほたる祭り」
平成18年2月19日 朝もやの館
「無形文化財・えんぶり」



第4回 実地活動 「南郷雪ほたる祭り」
平成18年2月19日 朝もやの館(夜)



第4回 実地活動 「南郷雪ほたる祭り」
平成18年2月19日 朝もやの館(昼)

— 森と水のサンクチュアリ連絡協議会 新聞掲載記事 —



デーリー東北 10月26日付
第1回「八の太郎サミット」記事



デーリー東北
平成18年1月1日付 元旦地域特集号